

歴史と文化の街 尾道が抱える空き家問題

尾道

オミチ

広島県の南東部に位置し、瀬戸内海に面している尾道。「瀬戸の十字路」として古くから繁栄してきた。千光寺・浄土寺などの古寺が多く、林芙美子・志賀直哉などの作品に描かれている。数々の戦禍をくぐり抜け、古くからの建築物が町の至る所に残っており、日本遺産にも指定されている。

空き家

アキヤ

近年、**空き家**は日本各地で問題となっている。法律において、**空き家**の定義は、「建築物またはこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む。）をいう。ただし、国または地方公共団体が所有し、または管理するものを除く。」となっている。

尾道の空き家

オミチアキヤ

車が一般的ではなかった時代から続く尾道の町には、人が一人通ることができるほどの細い路地が張り巡らされており、山側には、斜面に立つ家も多く、現在の建築基準法やがけ地条例では、一度解体すると家の建て替えが出来なくなる場合があり、高齢化も相まって、次々と**空き家**が増えている。

平成27年度の尾道市による調査では、**空き家**は約7,300件となっており、市は、景観や治安の悪化を懸念し、対策を講じている。

「尾道市空き家バンク」制度

オミチアキヤバンクセイト

尾道市は10年ほど前から「**空き家バンク**」制度を作っていたが、2007年6月を最後に、「**空き家バンク**」の登録物件がなくなり、**空き家**はあるが情報提供をできない状況にあった。そこで、2009年より尾道市は、NPO法人尾道空き家再生プロジェクトと協力し、「**尾道市空き家バンク**」をスタート。古い家や坂の町で暮らしてみたい人と**空き家**の家主とを結ぶシステムで、高齢化と空洞化の進む町に移住してくれる移住者を広く募集し、地域の活性化や、尾道の町並みを引き継いでいくことを目的としている。バンクへの登録者が800人以上と日本でも有数の規模となっている。NPO法人と連携することで、行政では、行き届かなかった部分への支援、地域の方との連携を行えるようになり、見ず知らずの町に移住するハードルは低くないにもかかわらず、若者や他県からの移住者が増えている。

